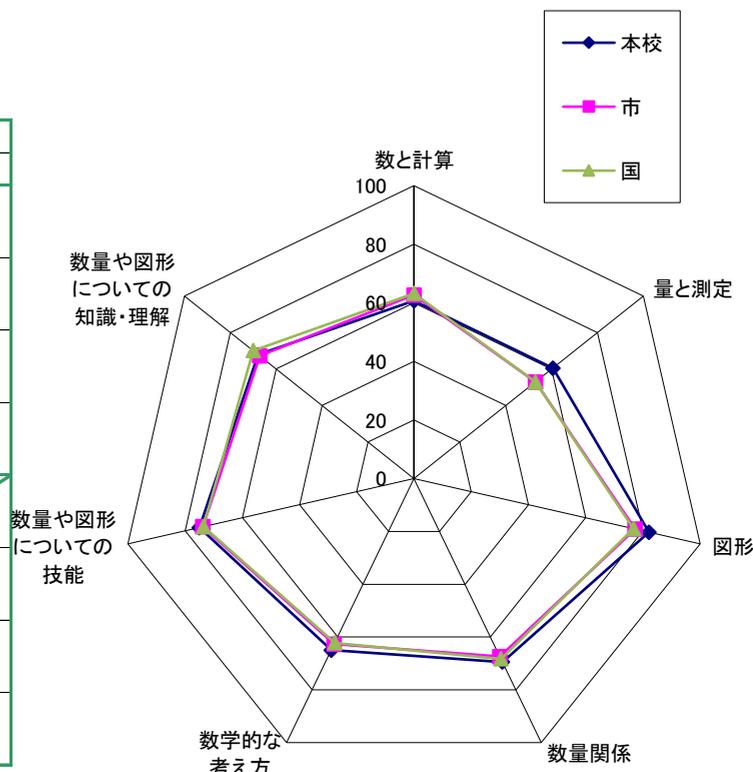


宇都宮市立横川中央小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	60.7	62.7	63.2
	量と測定	60.5	52.9	52.9
	図形	82.1	77.3	76.7
	数量関係	69.5	67.4	68.3
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方	65.0	62.7	62.2
	数量や図形についての技能	75.0	73.8	73.6
	数量や図形についての知識・理解	67.9	67.2	70.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<ul style="list-style-type: none"> ●数と計算の平均正答率は60.7%で、全国平均より2.5ポイント低い。 ●「被除数と除数にかけ数やわる数を選び、$600 \div 15$を計算しやすい式にして計算する」の正答率は69.1%で、全国平均より5.8ポイント低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・計算のきまりを使って、自分で計算しやすい式に直して計算することに課題が見られる。そのため、繰り返し計算練習に取り組みさせることも重要であるが、普段からどのように計算すればより簡単にできるかを考え、工夫して計算できるように指導していく。
量と測定	<ul style="list-style-type: none"> ○量と測定の平均正答率は60.5%で、全国平均より7.6ポイント高い。 ○「減法の式が、示された面積をどのように求めているのかを、数や演算の表す内容に着目して書く」の正答率は53.1%で、全国平均より9.2ポイント高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・複雑な形の面積を工夫して求めることについて、個人で考えるだけでなく、グループ学習で色々な解法に触れさせて、柔軟な思考力を育成していく。 ・複数のグラフを関連付けて読み取り、新たな数量を求めることができるようにするために、グラフ上の数が何を表しているのかよく考えて、場面に応じて計算して求めることに慣れさせていく。 ・問題の場面に応じて、適切に単位量あたりの大きさを求めることができるように、数の意味やその計算をすると何の数量が出てくるのか、普段の学習の中で指導を充実させていく。
図形	<ul style="list-style-type: none"> ○図形の平均正答率は82.1%で、全国平均より5.4ポイント高い。 ○「二つの合同な図形を、ずらしたり、回したり、裏返したりして、同じ長さの辺どうしを合わせてつくることのできる形を選ぶ」の正答率は67.9%で、全国平均より7.6ポイント高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・台形についての図形の定義はよく理解しているが、その他の図形についても定義を理解できるように、授業で復習を取り入れるなどして定着を図っていく。また、図形を組み合わせたり、分解したりして考えることに慣れていくために、具体物を利用して思考する活動を取り入れていく。
数量関係	<ul style="list-style-type: none"> ○数量関係の平均正答率は69.5%で、全国平均より1.2ポイント高い。 ●「$1800 \div 6$は、何m分の代金を求めている式といえるのかを選ぶ」の正答率は39.5%で、全国平均より7.5ポイント低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グラフを読み取ることについては、比較的よくできている。今後は、様々な種類のグラフに慣れさせ、適切にグラフを読み取る力を伸ばしていく。 ・問題を解くために必要な数量を考えることについて、しっかりと理由をもって立式できるように指導をしていく。